

西村山地区の県立高校の再編整備計画に係る地域説明会
<朝日会場> 記録概要

- 1 日 時 平成 23 年 1 月 21 日 (金) 19 : 00 ~ 20 : 15
- 2 場 所 エコミュージアムコアセンター「創遊館」
- 3 出席者
地域の方々 46 名
県教委 高校教育課長、高校改革推進室長、高校教育課課長補佐、高校改革主査
- 4 内 容 室長から再編整備計画の骨子の説明後、質疑応答
- 5 質疑応答概要
(質問・意見)
 - 「将来の統合を視野に」と「総合学科への改編」について、見通しはどうか。
(県教委)
 - 再編整備については、学校の統合を進めながら適正規模としている 4 ~ 8 学級を確保するという基本方針に変わりはない。
 - 平成 25 年度からの当地区の再編整備計画では、3 学級の学校が 3 校、5 学級の学校が 1 校になるが、平成 25 年度以降の少子化を考えると、さらなる学級減は避けて通れない。
 - 学級減の時期は、地区全体の中学校卒業生数の推移と各校の志願状況を踏まえ検討する。
 - 学級減により 1 学級規模になり、入学者が 20 名を下回ることが 2 回になった場合は、翌年度から募集停止とする。
 - キャンパス制を導入しながら学級減で対応していく中で、学校の特色の維持が困難な状況になれば、統合の検討も必要であると考えている。ただし、統合の時期や場所、学校の枠組み等は現段階では白紙である。
 - 総合学科における系列の設置については、農業に関する系列を設置するということは決めている。他の系列の設置については、地域の方々の御意見を参考にしながら学校と十分相談しながら検討していく。
(質問・意見)
 - 寒河江高校普通科と左沢高校総合学科の選択科目の違いは何か。
 - 単位制の導入は、総合学科は想定していないのか。
(県教委)
 - 寒河江高校普通科に開設される選択科目は、大学進学に対応するための普通教科である。一方、左沢高校総合学科は、専門教科を「産業社会と人間」を含め 25 単位以上開設することとされており、普通教科と専門教科の両方を選択科目として開設する。
 - 総合学科も特色ある教育を展開するため、単位制である。
 - 単位制は、定時制・通信制、総合学科、普通科に導入されている。
(質問・意見)
 - 左沢高校と寒河江工業高校とのキャンパス制において、生徒が両校間を行き来することは想定しているのか。
 - 寒河江高校農業校舎には、現在広範囲から通学しているが、左沢高校に機能移転してからも通学できるのか。

- 農業校舎の実習地で学習する場合、左沢からの移動はどうか。
- 移動しての実習では準備に時間を要することになることや、実習地を管理するための職員が現在より増えてしまうのではないかと考えると、農業教育がなくなるのを待っているのかという印象を受けてしまう。
- 一方で、現在は普通高校で普通教科を勉強してから農業をしなければならぬくらい、農業技術は難しくなっていることを考えると理解できる部分もあるが、拙速な感じがする。

(県教委)

- キャンパス制の連携・交流は、教員が相手校に出向いて授業をする出張授業を基本に考えている。授業において生徒が移動することは想定していない。
- キャンパス制は各校の教育環境を改善し、両校にメリットがあることを方向性としている。例えば、左沢高校と寒河江工業高校のキャンパス制では、左沢高校で情報に関する資格取得を目指す生徒がいた場合、夏休みに寒河江工業高校の講習に参加して資格取得を目指すということも考えられる。
- 農業は本県の基盤産業であり、農業の担い手育成は県の施策としても取り組んでいる。当地区では果樹園芸を農業の特色として展開しているので、左沢高校でも果樹園芸に関する教育を進めてまいりたいと考えている。
- 農業校舎で行っている農業に関する学習は、総合学科の農業系列における学習でも行われるように準備を進めたいと考えており、農業を学びたい生徒が農業を学べる環境は継続していく。
- 1年次に、生徒一人ひとりに将来の進路をじっくり考えさせる教育と各系列のガイダンス教育を重視する。より幅広い視点から農業を目指す意欲を育て、2年次からの農業に関する学習の目標を明確にさせてから学習を開始させたい。
- 農業教育を軽視するという考えは全くなく、むしろ総合学科の特色を活かしながら生徒の主体的学習を実現し、本地区の農業の担い手の育成を進めてまいりたい。
- 実習地への移動距離は約6kmであるが、バスでの移動を考えている。学校の隣接地に実習地があるのは理想ではあるが、他の農業高校でも隣接していない農場での実習は、バスで移動して実習をしている。
- 食品加工やバイオテクノロジーなど農業に関する施設については、左沢高校への整備の検討が必要であると考えている。
- 生徒の通学に関しては、駅からの距離は、農業校舎より左沢高校の方が遠くなるが、東南村山地区から入学している生徒は、農業校舎より左沢高校の方が多く状況にあり、左沢高校への機能移転により通学が著しく困難になるとは考えていない。

(質問・意見)

- 現在の中学1年生から実施ということであるが、現在の中学2年生、3年生はどうか。総合学科高校になれば、2、3年生も選択して学習することができるのか。

(県教委)

- 今回の再編整備計画は平成25年度からの実施であるので、平成23年度、24年度に入学した生徒は、現在のカリキュラムで学習することになる。
- なお、平成23年度、24年度に農業校舎に入学した生徒は、農業校舎で卒業まで学習することとなる。

以上